伏木健康だより

NO.37 平成23年6月発行

社会保険高岡病院広報委員会

http://www8.ocn.ne.jp/~syatkb/　mail to:syatkb-g@gamma.ocn.ne.jp

新型ＭＲＩでより迅速、多彩な検査が可能に

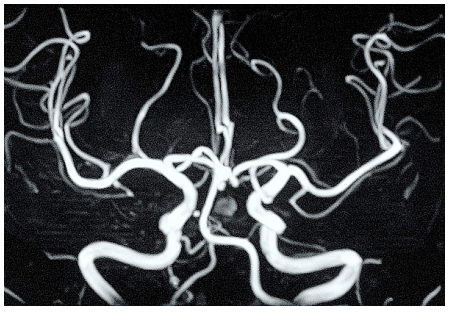
本年４月より、最新型のＭＲＩ装置が稼動を始めました。　従来のＭＲＩ検査は「暗い・狭い・音がうるさい・検査時間が長い」とマイナスイメージが強いものでしたが、導入されたＭＲＩ装置は「明るい・閉塞感が少ない・騒音が少ない・検査時間が短かい」と、検査を受けられる方にとってより負担の軽い検査となりました。特に騒音に関しては、数ある装置の中でも最小レベルであり、また短く広いトンネル構造のため、お子様や閉所恐怖症の方でも安心して検査を受けていただくことが可能になりました。

ＭＲＩは人体の水素原子核の状態を画像化して病変をみつける検査法です。ＭＲＩ装置が他の検査と比較して大きく違うのは、放射線を使わないということです。つまりレントゲン検査やＣＴ検査と違い、放射線による被ばくは一切ありません。それでいて、病変の形のみでなく、その性質まで診断することが可能なのです。特に脳・脊髄、子宮・卵巣、前立腺、四肢の病変の診断に有用とされています。この他に、肝臓病変の検出や胆管・膵管の描出、心臓の動きをみることもでき、さらには、乳房検査においては、ＭＲＩ検査でしか描出できない多発乳がんが存在することも報告されています。

また、ＣＴ検査では造影剤を用いることで血管を描出しますが、ＭＲＩ検査では造影剤を使用せずに血管を３次元で描出することが可能であり、脳動脈瘤を調べるための脳検診においては欠かせない検査となっています。また、必要であれば造影剤を使用し、病変の性質や、大血管、下肢の血管など、より多くの情報を得ることもできます。

いろいろな病気の発見や診断に有効なＭＲＩ検査ですが、心臓ペースメーカーをつけている方、体内に金属が挿入されている方などの一部は、検査を受けられない場合があります。担当医や検査担当者に事前に申し出てください。

放射線科　原田淳也



左：頸椎断面　右：脳血管